

	<p>2016年 7月15日 第115号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.cocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

観察会 バッタ広場の「虫しらべ」

- 日時：8月20日（土）10時～11時30分 雨の場合は27日（土）
はっきりしないときは 赤塚公園サービスセンター（3938-5715）へ
- 集合場所：板橋美術館前
- 持ってくるもの：ポリ袋、飲み物、帽子、草むらに入る服装（長袖、長ズボンがよい）、蚊もいるので必要なら虫よけ薬。
あれば昆虫網や虫かご、図鑑（なくてもよい）
- 申し込み・問い合わせ：いたばし水と緑の会事務局 瀬田：3969-7124
- 定員20名程度 ・小学3年生以下の方は保護者ご同伴ください。

主催：いたばし水と緑の会・赤塚公園サービスセンター

赤塚城址にあるバッタ広場はバッタやカマキリ、キリギリスなど、生き物たちのための草原です。ここにどんな生き物がいるか、毎年調べています。みんなで生き物をそとつかまえて、ポリ袋などに入れ、それをみんなで観察して、種類を調べてから放します。暑い夏は虫たちが最高に元気になる季節、生き物の世界に興味のある方、ご参加下さい。



とんぼ池にいた生き物いろいろ

とんぼ池にいる生き物では、なんと言っても多いのはザリガニです。5月、6月のザリガニ捕獲数は大が32, 中小100匹です。梅雨に入って池の水かさが増し、水温も上がってこれからがザリガニの本番です。定期的にトラップで大きなザリガニを捕獲していますが、とても追いつきません。とんぼ池は今時珍しい土の池です。穴を掘って巣穴をつくれるし、田んぼのように農薬も撒かれないし、ザリガニにとって最高の環境です。

昨年とんぼ池をリニューアルし、水草が茂る浅めの棚田状にしました。水草のジャングルが、水の中の小さな生き物達をザリガニから守ってくれることを期待して・・・

5月20日、ザリガニだらけの池で、オオアオイトトンボのヤゴがいました(写真右)。オオアオイトトンボは、前号(会報114号)に釣巻さんが詳しく書いていますが、おさらいすると、秋に水の上に張り出した木の枝に産卵し(木の枝に産卵するなんて珍しいですね)、トンボは水辺の傍らの森で夏を過ごすそうです。水の上に張り出した枝と、夏を過ごす森が直ぐそばにあることが生息の必要条件だそうです。オオアオイトトンボの東京都区部の記録は皇居と目黒自然教育園だけだとか。林縁にあるとんぼ池を好むトンボがいることを忘れないで、見守っていききたいですね。



5月13日、クロスジギンヤンマが産卵していました(写真はありません)。クロスジギンヤンマはギンヤンマに似ていますが、やや暗い林の池や沼などの水草に産卵します(植物も大事なのです。水草でなくても水に浸かっている植物があればよい)。ギンヤンマはオスとつながつて産卵しますが、クロスジギンヤンマはメス単独で産卵します。以前大仏下のミニとんぼ池でクロスジギンヤンマが多数羽化しました。ザリガニが放される前の話です。また、昨年10月池の作業中にクロスジギンヤンマのヤゴ7匹がいました。このとき、池は再生工事中で、12月に水を抜いて大工事をしたのでヤゴの生き残りは無理だったでしょうね(工事中はザリガニも大変少なかった)。

6月11日、オオシオカラトンボの雄と雌が産卵しにきました。動き回るトンボはなかなかうまく撮れません。ずいぶん粘ってやっと撮影しました。メスが水面低く飛びながらチョンチョンと腹部を水につけて産卵していました。その間オスはメスの傍にいました。シオカラトンボはお



左：産卵中のオオシオカラトンボ（中央の水際にいるのがメス。オスはメスの下側にいる）
右：ヤブヤンマ（水面からかなり上の湿った土に産卵。場所を変えてあちこちに）

なじみのトンボですね。塩水をかけて乾燥させたように灰白色の粉っぽく見えることからシオカラトンボと言われ、メスは黄色い色からムギワラトンボと呼ばれています。雄と雌は色が全く違いますが同じシオカラトンボです。オオシオカラトンボはシオカラトンボによく似ていますが、色が濃く、後翅の付け根が黒いのが特徴です。とんぼ池にはシオカラトンボではなくて、薄暗い環境を好むオオシオカラトンボが来ます。

6月1日には、ヤブヤンマが来ました（写真右上）。大きなトンボでオニヤンマかと思いましたが、水面よりかなり上の湿った土手にべたっと体をよせて産卵していました。とても不思議な光景でした。（オニヤンマは水底の土に産卵します）。ヤブヤンマは樹林に囲まれた小規模な池や水たまりなどに来るそうです（普通に見られるトンボだそうです）。

6月24日、アキアカネが多数来ていました。翌日25日、バッタ広場にも多数が飛び交っていました。アキアカネは夏の間、高原など涼しいところに移動し、秋に平地に戻ってきて産卵します。

他に池にはイトトンボのヤゴが6匹いました。

トンボもいろいろです。赤塚とんぼ池は薄暗い林縁にあり、そういう場所を利用するトンボたちがやってきます。ヤゴは山側の水の中で採取しました。トンボもいろいろ、とんぼ池が薄暗いことは、デメリットではありません。

ザリガニ（アメリカザリガニ）の生態系に及ぼす影響は、あまり深刻に考えられていませんが、全国各地の池や沼に棲息していた希少なトンボ達が、侵入したアメリカザリガニによって絶滅の危機にさらされていると言われています。

人の多い公園にあるとんぼ池（ビオトープ池）は、フェンスで囲っていても説明板があっても

サンクチュアリとは思ってもらえず、ザリガニ釣りスポットとして認知されていて、フェンスがあるなしに関係なく人は入り、ザリガニを釣ったり、池をさらっていきます。生態系を乱すザリガニの繁殖池になっているのは大変有害なことで、残念です。6月中頃から池の水かさが増し、ザリガニが猛烈に増えました。7月8日に行ってみると、とんぼ池はさんざん遊ばれた挙げ句、岩陰に置いたカニ籠まで盗まれてしまい、がっかりしました。こうなるとザリガニもザリガニ捕りもお手上げです。それにしてもフェンスを乗り越えて入るのだったら、もっとうまく捕まえてもらいたい。

幸い、ザリガニ捕りは橋の両側に限られています。草ぼうぼうの区域には水際に生えている「アシカキ」がざらざらで手足にひっかき傷ができて痛いので、一度入ると懲りるでしょう。が、トンボのヤゴたちも多くは、ザリガニの多い橋の両側にすんでいます。

ザリガニがいっぱいいても、ザリガニも喰わない固い水草の茂みに身を隠してトンボのヤゴたちがザリガニと共存できる可能性があるのではと私は考えています。トンボたちがこの池で冬を越してトンボになって飛び立つことができるか、来春池の生物調査を待ちます。

とんぼ池に排水口がないのが悩みの種です。5月に流入湧水量を減らし、池底の防水シートを一部剥がしました。浸透効果も少し見られ、池の一部が干上がって、非常によい状態（ザリガニは激減）だったのですが、雨が降り続くと浸透にも限界があり、水かさが増したままの状態が長く続くと思われます。さてどうしたらよいか、みんなで知恵を絞りましょう。

ザリガニ用のトラップと、予想しなかったトラップの 二次利用でかかった樹林性の昆虫の話(オマケ)

ザリガニを捕獲するために、カニ籠と言われているものや、ウナギ用の竹で編んだトラップなどいろいろ試してみました。池が浅いときは、カニ籠は大きすぎて設置場所が限られます。今はカニ籠と塩ビ管を使っています。



ザリガニは巣穴を掘るので、穴が好きなはずと考えて、塩ビ管を用意しました。ウナギトラップや塩ビ管は餌を入れてただけでは食べ逃げされるので、いろいろ工夫をしています。餌は贅沢ですがスルメです。ふやけてばらばらになってしまう餌は水も汚れそうなので使っていません。

カニ籠（ザリガニトラップ）
入り口が小さく中に餌を入れ、水に沈める

カニ籠を、餌を残したまま落ち葉のたまった樹林の傍に置いておいたら、籠に樹林性の昆虫が集まってきました。

以前、赤塚公園などの公園樹林地で釣巻さんの指導でベイトトラップ調査をしたことがありました。ベイトとは餌のこと、餌を入れた落とし穴に落ちた昆虫調査です。餌は腐った肉とかカルピスなどを使います。「スルメ」は臭いもぷんぷんして、充分ベイトトラップのえさです。

日曜日（6月12日）にカニ籠（ザリガニトラップ）を回収して放置して、次の金曜日（6月17日）にはもう虫たちが入っていました。10匹近いハエが籠の中をぶんぶん飛んでいました。他にマダラカマドウマが1匹とベッコウヒラタシデムシが1匹です。マダラカマドウマは俗称「便所コオロギ」ですが、水洗トイレしか知らない人には理解できない名前でしょうね。ハエが飛んでいたと言うことは、たった5日間でハエが卵を産みウジ虫から成虫になったことになります。

翌週（6月24日）には、ベッコウヒラタシデムシ5、コクロシデムシ1、シデムシ幼虫（オオヒラタシデムシ幼虫に似ている）2、エンマコガネの仲間1、エンマムシ？1でした。ベッコウヒラタシデムシ（写真右）は、これまでベイトトラップ調査ではかかったことがないシデムシですが、昨年7月にため池近くの城址の登る階段で見ました。このあたりは釣り人が死んだ魚を捨てたりするので、まさか生臭い魚類が好物のシデムシということはないと思いますが・・・。カニ籠を持ち去られてしまうので、この調査もできなくなりました。



シデムシは、生き物の死体を食べる虫です。

死体を食べる！と聞いただけでとその先は聞きたくないという人も多いかもしれません。シデムシは森のお掃除やさんです。私はトラップ調査に参加し、樹林地の落ち葉の下にいる生き物と知り合いになるにつれて、森の掃除やさん達に感謝し、愛着がわくようになりました。興味のある方には、図書館に「しでむし」という絵本もありますよ（坂本 郁子）。

郷土資料館 の前の古木

郷土資料館の前にイヌシデの古木があります。園路を横切って傾いていて、支柱に支えられています。

2月、城址の山道から降りる途中、上からこの古木が見えました。周囲が2m以上ある幹ですが、くりぬいた丸木舟のように中はがらんです。腐った幹の芯から芽生えて育っている





若い木（シロダモ）が見えました（写真下）。何本もの支柱に支えられ、「点検樹木35」と書かれた札が付いていました。满身創傷で、かろうじて生きているように見えました。

木はため池側に枝を伸ばしていますが、根元はため池の外側にあり、東京都が管理されています。公園に来た人が行き来する園路の上に枝を伸ばしている腐った木は、通常ならあっさり切り倒されるところです。



幹の芯の部分は腐ってがらんどうで、樹皮（外側）も周囲の半分ほどが残っているだけ（写真左上）、それもところどころに穴が開いていて向こうが見えています（写真右上）。

ところが、5月に木の側を通ったときを見ると、枝先には若葉が茂っていました。枯れた枝は一つもありません。次頁の写真をご覧ください。

赤塚公園サービスセンター長によると、木は皮さえ残っていたら生きられるが、芯がないと支えられないので支柱が必要だということでした。

木の生きている部分は樹皮の内側の形成層で、このわずかな層を通して根から水分と栄養を送り、新しい細胞ができて、外側に成長して幹が大きくなります。その内側の年輪のある大部分は死んだ細胞なので、幹が空洞でも木は生きているのです。

この春にはあちこちで若葉の出たケヤキの剪定がありました。新芽が出たケヤキの枝が葉を1枚も残さずに枝切りされていました。1本だけではありません。しばらくすると葉が出てきて枯れ死することはありませんでしたが、木がかわいそうでした。私は毎朝散歩する西台公園も、どんどん木が切られてスカスカになっていきます。人間の都合で、生きている木が消耗品のように処分され、何も感じなくなってしまうのがこわい。





幹が空洞でもしっかり
生きている新緑の
イヌシデ

板橋区発行「写真は語る」の昔の赤塚ため池の写真を見ると、この傾いたイヌシデが池の畔に写っています。釣巻さんの子どもの頃からあった木だそうです。樹齢何年なのでしょう。

戦後撮影されたもので、池は梅林から郷土資料館の前の半分は池だったそうです（坂本郁子）。



写真提供：板橋区公文書館

活動のお知らせ

運営委員会：7月23日（土）12：30～13：30

8月27日（土）12：30～13：30

総会に向けて、次年度の活動計画を相談します。

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：9月17日（土）12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

活動予定いろいろ

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察。
集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

状況を見ながら手入れ内容を検討します。作業は1時間程度として、時間が許せば引き続き周辺や他のビオトープの観察をします。関心のある方は事務局にご連絡下さい。

7月23日（土）10：00～11：30 11：00～12：00観察会

8月20日（土）10：00～11：30 バッタ広場虫調べ（観察会）

雨天の場合は8月27日（土）（くわしくは表紙をご覧ください）

8月27日（土）10：00～11：00 バッタ広場手入れ

11：00 トンボ池等の観察会

9月17日（土）10：00～11：00 11：00～12：00観察会

2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）

8月6日（土）、9月3日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合

●いたばし水と緑の会のURLが変わりました。

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。